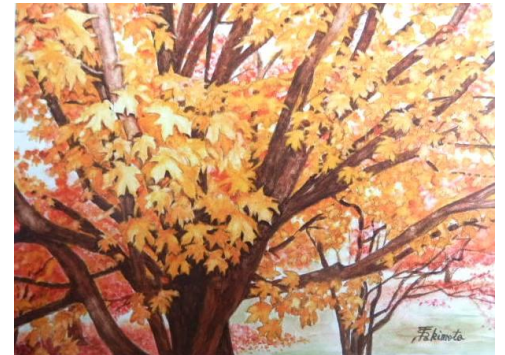


学長のコラム

AI・ロボットの話 (1/2)

オックスフォード大学のオズボーン准教授が「AI・ロボットの発達により 10～20 年後には約 47% の人の仕事がなくなる」というショッキングな予想を「雇用の未来」という論文で発表したというニュースを記憶されている方も多いと思います。自動運転技術の進歩によりタクシーなどの運転手の仕事がなくなるだけでなく、画像解析技術が広まれば、がんや結核の診断、内視鏡検査も AI 化が進むと言われているので、検査系にもかなりの影響が及ぶとも考えられます。「10 年後、20 年後も選ばれ続ける大学」を目指す本学の教育改革の議論のなかでも、AI やロボットの講義などが必要になるのではないかとの議論もあったので、気にはしていたところ、最近、興味深い論説を読んだのでご紹介します。著者は、国立情報学研究所の新井紀子教授。「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトで話題になった先生です。2011 年に開始されたこのプロジェクトでは、東ロボ君に毎年センター試験を受けさせ、2016 年までに全体の 7 割近くの大学で合格率 80% 以上というレベルまで成績を伸ばした。東ロボ君は論述式の問題も解きますが、単に記憶していることを並べているだけで質問に答えていないという文章の内容だそうです。すなわち、言葉の意味を理解しているわけではないにもかかわらず、センター試験で日本の高校生の上位 20% に食い込んだのです。この結果から、新井教授はある大きな問題に気付いたといえます。「問題の意味が分からない AI がこれほどの成績を取れるなら、実は人間の方も意味が分からずに試験を受けているのではないか」と考えたわけです。その考えを検証するために、中学生にリーディングスキルテストを実施してみると、AI と差別化できるはずの「意味が分かる」という能力が実は人間にも十分には備わっていないということが明らかになったそうです。そして、先生は、「読んで意味が分かる能力」は、AI に仕事を奪われないために人間が備えるべき基礎的な能力である。我が国の未来は、自らの頭で考え、変化に正しく対応していける人材教育にかかっているとんでも過言でない。」と結論付けておられます。私どもとしても、アカデミックスキルラボの開設や共通教育講義「アカデミックスキル 1、2」の開講（平成 31 年度から予定）と専門教育との連携を通して、「読んで意味が分かる力」はもとより、書く力、考える力を学生諸君に獲得していただき、ロボットに仕事を奪われない創造的医療専門職になっていただきたいものです。



11 月・12 月・1 月の主な行事予定

11/27(月)	防災訓練 11:45-12:15 熊本県私立大学協会 研修会 18:00-21:00 ホテルキャッスル
11/28(火)	インフルエンザワクチン接種(教職員) 14:00-14:30
11/29(水)	学校法人銀杏学園 理事会
12/ 2(土)	助産別科一般入試
12/ 4(月)	職員証用 顔写真撮影 10:00~17:00 ※12/8(金)も実施
12/ 9(土)	看護学科臨地実習合同研修会
12/10(日)	チャレンジ熊本大！一般入試対策講座 地域貢献事業(地域看護研究会)9:30-16:00 キャンパステラス
12/14(木)	杏友会(教職員)親睦会 19時~ホテル日航熊本
12/16(土)	県私大協・ボウリング大会 スポーツ熊本にて 16:30~
12/20(水)	お披露目講演会・報告会 17:30-18:30 1302M 講義室
12/27(水)	仕事納め式 11:00~ (注)勤務時間は、8:30~12:00
12/28(木)	※H29.11/11(土)推薦入試日(出勤日)の振替休日
12/29(金)	年末・年始休暇(職員) 12/29~1/3
1/ 4(木)	※H30.2.4(日)一般入試(出勤日)の振替休日
1/ 5(金)	仕事始め式 11:00~ 勤務時間は、10:00~12:00
1/ 6(土)	認知症看護分野入試
1/ 9(火)	授業再開(通常勤務) *レストラン開始
1/10(水)	助産学実習指導責任者会議 10:00~13:00
1/11(木)	熊本大 健康と科学の夕べ講演会 19:00~50周年記念館
1/13-1/14	大学入試センター試験(一部の教職員、2日間業務)
1/22(月)	入試業務説明会◆熊本会場(主に教員対象) 18:00~
1/23(火)	入試業務説明会◆熊本会場(主に事務職員対象) 11:00~ ◆地方会場(地方会場担当者対象) 18:00~
1/26(金)	後期定期試験 1/26~2/5(予備日含む)

学園祭(第41回 杏祭)

第41回「杏祭」が10月21日(土)に開催されました。今回のテーマは「叫べ!」です(「叫」という漢字の旁を4に、「!」を1に見立てて「41」を表現)。「学生主体で大声を出して盛り上がる」をコンセプトに、観客参加型のステージやグルメコンテストなどの新企画も登場。前日の前座祭から二日間にわたり、各種イベント、模擬店、文化展など趣向を凝らした内容で、参加した多くの人たちを楽しませてくれました。本祭はあいにくの空模様でしたが、フィナーレでは雨を吹き飛ばす勢いで、学生たちの想いが込められた花火が打ち上げられました。かすんだ夜の雨空が華やかな色に染められた瞬間、学生たちから歓喜の“叫び”が沸き上がりました。(文責:学務課長 平川文丈)



学部長表彰（社会活動賞）表彰式

10月19日（木）に学部長表彰式をおこない、杉内学部長より賞状と副賞が贈呈されました。

○岡田 哲樹さん（医学検査学科4年）

東福島原発事故で会津若松市に疎開した小学校の子どもたちのため、車中泊をしながら卒業式や運動会などの行事のたびに現地を訪問し、交流を続けてきました。



医学検査学科4年 岡田 哲樹さん



岡田 哲樹さんを囲んで、友人たちが祝福

○ボランティアクラブ Rideto

「人々の笑顔のために」を目指し、オレンジプロジェクト・西里活性化・アースデーマーケットの3分野を中心に活動しています。熊本地震後は、日本ユネスコ協会連盟のバックアップを受け、児童支援ボランティア活動をおこないました。



Rideto代表リハ理学2年 松尾真季さん&クラブメンバー(一部)&戸渡先生(顧問)

学生の皆さんの益々の活躍を期待しています!! (文責：学務課)

温州医科大学（中国）からの本学訪問

10月5日（木）、中国浙江省の温州医科大学より、医学部学生11名をはじめとする14名の方々が「日本医療・福祉関係研修」の一環として本学を訪問されました。崎元学長による本学の説明の他、学内見学や授業参観（医学検査学科3年次「病理検査学実習II」）、その後「われもこう」の施設見学を行っていただきました。急な訪問依頼であったにもかかわらず、関係者の皆様方には快くご対応いただき、ありがとうございました。

(文責：事務局長 河瀬晴夫)



「アカデミックスキルラボ」キックオフシンポジウム

アカデミックスキルラボ開設を記念したキックオフシンポジウムが10月14日、本学50周年記念館で開催され、約50人の参加者が新しい学びの形について理解を深めました。指導を通じ自分の頭で考える力を養うというラボの趣旨説明の後、フィンランド教育に詳しい佐藤隆・都留文科大教授が特別講演。佐藤先生に山下雅彦・東海大(熊本キャンパス)教授、渡辺雄一ラボ室長らと交えたシンポジウムは、「学ぶ」ことの意味をいま一度問い直す貴重な意見交換の場となりました。

(文責：アカデミックスキルラボ室員 渡辺淳子)



帰国報告会

10月27日（金）にキャンパステラスにおいて、国際交流で本学から派遣した学生の帰国報告会を行いました。Global Student Leadership Program、大邱保健大学交換研修、コンケン大学交換研修の3つのグループに分かれ、プログラムの内容や学んだこと、個人が感じたことなどをそれぞれ発表してもらいました。中には、派遣先の大学から優秀な学生を派遣してくれてありがとうと後日お礼のメールが届いたグループもありました。今後の学生生活に是非活かして欲しいと思います。(文責：企画課)



ピア・サポーター&プチ・サポーター全体交流会

10月23日（月）、ピア・サポーター&プチ・サポーター全体交流会を開催しました。会の始めに、4年生16名に対し、杉内学部長より感謝状と記念品が贈呈され、後輩ピア・サポーターから感謝の言葉が述べられました。これまで頑張ってくれた4年生に続いて、後輩ピア・サポーター&プチ・サポーターの皆さんが益々活躍してくれることを期待します。(文責：学務課)



*

*

私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科・生活機能療法学専攻の吉村 友希 講師に投稿していただきました。

「人間が人生の意味は何かと問う前に、人生のほう人間に問いを発してきている。」これは、「夜と霧」の著者として知られる精神科医ビクトール・フランクルの言葉です。自分の人生を振り返ると、自己の選択というより自分の意思を超えた何かに突き動かされたなど感じる場合があります。例えば、作業療法士になったこと、結婚したこと、3人の娘のお母さんになったこと、教育職に転換したこと、前任校を退職したこと、そして今熊本で働いていること。それらは、自分であらかじめ描いていた人生のシナリオにはないことでした。しかし、私を立ち止まらせ、時には悩ませ、時には考えさせ、時には行動に踏み出すように勇気づけてくれました。それらの出来事は、「今」につながるために必要な経験だったのかもしれませんが。そして、「今」の経験もきっと何かの意味につながっているのでしょう。だから私は、「今」この時を大切に過ごそうと思っています。